

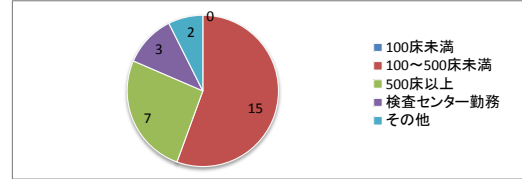
日時：6月 29日（土）、15:40～17:30
 場所：千葉市生涯学習センター 3階 大研修室（地図）
 テーマ『血液検査技師の育成を目指して』
 講演1「千葉大学病院における血液検査技師の育成について」
 千葉大学医学部附属病院 検査部 大山 正之 技師
 講演2「初心者のための血液検査機器の検討～基礎からビットホールまで～」
 順天堂大学医学部附属浦安病院 臨床検査医学科 澤田 朝寛 技師
 特別講演「今さら聞けない血液検査～基礎検討をする上で必要な統計解析の知識～」
 千葉県救急医療センター 検査部 検査科 佐藤 正一 技師
 参加人数：48名



アンケート結果(28/48 有効回答率:58%)

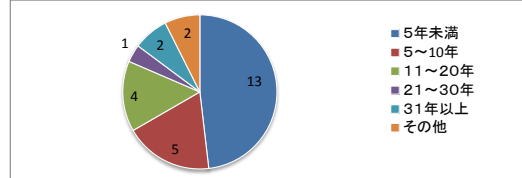
1. あなたの勤務先の病床規模はいくつですか。

100床未満	0
100～500床未満	15
500床以上	7
検査センター勤務	3
その他	2



2. あなたの血液検査経験は何年ですか？

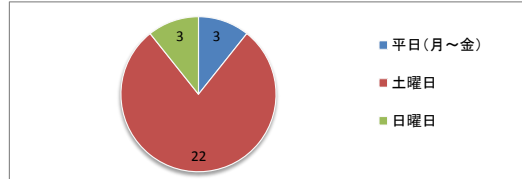
5年未満	13
5～10年	5
11～20年	4
21～30年	1
31年以上	2
その他	2



3. 研修日について、希望の曜日または時間はありますか。

平日（月～金）	3
土曜日	22
日曜日	3

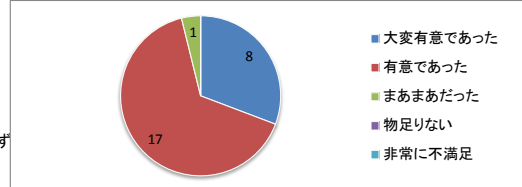
- ・土曜日14時から
- ・土曜日15:30時から



4. 今回の血液研修会についてどのような印象をお持ちですか？

大変有意であった	8
有意であった	17
まあまあだった	1
物足りない	0
非常に不満足	0

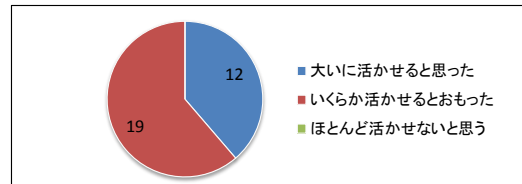
- ・検討というテーマはやり方が分からず悩んでいましたので、大変すかします。
- ・今年度、当院でも新しい機器を入れるのだが、どのように先輩がすすめているかが理解できなかったので、今回の話を聞いて理解できた。
- ・澤田先生の講義は特に実践的で分かりやすく、ためになりました。
- ・統計の勉強をいままでした事がなかった。
- ・今ちょうど検討中なので勉強になりました。
- ・統計も評価方法を誤ると信頼できないと分かった。
- ・図表にもルールがあることが分かった。
- ・統計について聞く機会がなかなかないので。
- ・当院では昨年末にXT-2000iからXT-4000iに変更した。その際、先輩技師が全て(業社とのやりとり、段取り)行っていた。今回の機器の検討についての話で、実際にどうゆうことをやっていたかが分かった。
- ・わかりやすかった
- ・統計の言葉が難しく、検討をさせていましたが、やってみようかな・・・？
- ・内容が分かりやすかった。
- ・検討に対する考え方、ならびに統計学について改めて考えられた。



5. 研修内容は今後の職務に活かせると感じましたか？

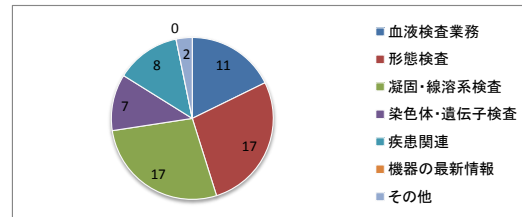
大いに活かせると思った	12
いづらか活かせるとおもった	19
ほとんど活かせないと思う	0

- ・日常業務の見直し、新規機械の導入検討などに大いに活用できるから。
- ・検討はあまりやった事がなく、上司に言われるままやっていた。
- ・澤田さんの講演は分かりやすかったです。
- ・目視のための基準の検討を行ってみようと思いました。
- ・図表作成のポイントが分かった。
- ・試薬変更に伴う検討をすることになっていたため。
- ・「初心者のための血液検査機器の検討」において、ファイルの統合～関連性までのデータのまとめ方が大変参考になった。
- ・グラフの誤った書き方！私もやっていることがあった。
- ・新人技師の教育方法
- ・新機種導入(入れ替え)の時の手順と注意点
- ・具体例が多く、時間も適切であった。
- ・時間配分、仕切りも素晴らしかった。
- ・統計解析



6. 今後の血液研修会の内容について、一番関心の高いものは何ですか。(複数回答可)

血液検査業務	11
形態検査	17
凝固・線溶系検査	17
染色体・遺伝子検査	7
疾患関連	8
機器の最新情報	0
その他	2



7. 職場での技師教育で、なにか工夫している点がありますか？(日常業務、当直業務を含む)

- ・技能チェックシートを作成し、研修者、指導者の修得、レベルの差、指導漏れを確認している(1ヶ月、3ヶ月、半年後に実施)
- ・技師会HPより機種間データ比較ソフトを使用しています。
- ・当直は一人の技師で全業務を行うため、一番早く出る血算で変なデータ(Hb<7.0(貧血)やPLT低値)があれば生化学のデータを見て相関(アルブミン低値、肝機能↓)しているかを確認する等。
- ・日々、手順の変更があるので、手順書の熟読を新人にさせている。
- ・当直日誌、日誌の2つを朝礼で確認することを原則とし、「聞いてません」「知りませんでした」を自己責任としている。
- ・見逃してはいけないデータ(Hbの3倍がHtだったり、MCMC36を超えない)を見逃さないために、多くのデータを自分の目で確認する。機器のデータ(スキヤッタ)も、グラフも見る。
- ・実習生に対して技師が作成した問題のレポートを課題としているが、改めて新人に対してトレーニング、知識の確認を行っている。
- ・なかなか教育に時間を取る事が出来ずに困っています。本日の講演にもありましたが、1セッションに1~3ヶ月かけて育てていこうと思いました。
- ・血液にかぎらず、他部署の結果を見る習慣をつける。

8. 今後、希望する研修会テーマはございますか。

- ・マーカーについて基礎から教えて頂きたいです(自施設で実施していないで良くわかりません(組合せ、etc))
- ・フローサイトメトリー
- ・顕微鏡の使い方(塗抹標本、計算盤を用いた細胞カウント)
- ・赤血球形態(大小不同=30%はどうか判断しているのか?)
- ・肺塞栓予防について
- ・凝固・線溶の基礎(一次、二次止血、DD、FDPIは何を見ているか、凝固系、線溶系の因子)
- ・(凝固)Hbによる採血量は採血管の線ビツタリとった場合とではどのくらいデータが違っているのか
- ・血算の機器の中身が知りたい→よくあるエラー、トラブル、対応法「圧力異常」が出たら、ここを見てればいとか
- ・凝固・線溶系のデータが治療とどう変化しているかなど。
- ・凝固検査の新しい項目と疾患関連の情報について
- ・特にありません
- ・FCMや染色体検査

9. 血液検査研究班に、なにかご意見はありますか？

- ・今回みたいに統計学とコラボするなどして日常業務などに活用できるテーマでやってほしいです。
- ・‘今さら聞けない血液検査’のシリーズを是非これからも続けて下さい。
- ・大山先生のご発表で血小板数測定のFonio法について触れられていました。私が昔に学習した記憶ではFonio法は耳朶採血からの血小板数測定法で、耳朶に硫酸マグネシウム(30%)を乗せた上で刺し凝固抑制した混合液を標本にしてカウントするものと理解していました。EDTA血による間接法とは区別しなくても良いのでしょうか？
- ・澤田さんの話し方が流れる様で、いつもながらすばらしいと思いました。
- ・佐藤さんの講演は技師の域を超えてすばらしいと思いました。
- ・特にありません
- ・年6回の研修会、お疲れ様です。

